

## 「GUTSU GUTSU」と沸き立つ 未来へー大阪・関西万博と地域 経済・グローバル情勢の中で地域 金融機関が果たす役割

株式会社池田泉州ホールディングス 代表取締役社長 兼 CEO  
株式会社池田泉州銀行 代表取締役頭取 兼 CEO

鵜川 淳

Atsushi UKAWA



2025年4月、大阪・夢洲において、大阪・関西万博がいよいよ開幕の時を迎えました。前回の大阪万博の開催は1970年。当時中学2年生であった私は、万博が近づくと、それまで見慣れていた景色が一変し、地域の大きな変化を実感したことを今でも鮮明に覚えています。今回の万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、「未来社会の実験場」とのコンセプトのもと、世界各国・地域・企業・団体が、それぞれの想いを携えてこの地に集い、半年間にわたって「未来」のあり方を提示します。先端技術の展示や娯楽の集積の色彩が強かった前回の万博とは異なり、今回は、医療や気候変動、エネルギーや人口問題といった人類共通の課題に対して、対話と共創を通じた社会実装の可能性を探る「課題解決型」の博覧会であることが大きな特徴です。

私たち池田泉州ホールディングスグループは、この貴重な機会を捉え、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会に協力するとともに「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナーとして、万博の成功と地域経済の発展に向けて積極的な活動を続けています。とりわけ、大阪府・市が主導する大阪ヘルスケアパビリオンに協賛企業として参画し、同パビリオン内の中小企業・スタートアップの展示・出展ゾーンにおいて、「GUTSU GUTSU CHALLENGE」と銘打ち、地域の中小企業やスタートアップ企業32社が、自社の強みや理念を世界に向けて発信できるよう、展示の設計支援からコンテンツ作成、スペース提供からPR活動に至るまで、一貫した支援を提供します。

「GUTSU GUTSU」という造語に込めた思いの通り、地域にはまだ表出していないものの、確かに存在する“ぐつぐつ”と煮えたぎる熱意や可能性があり、それらを丁寧にすくい取り、新たな形にしていくことこそが、地域金融機関としての使命であり、誇りでもあります。この熱意が、国内外の多様なステークホルダーとの出会いによって化学反応を起こし、次代を担う新しい事業や産業が生まれていく。私たちは地域金融機関として、こうした過程における「触媒」となりうるものと考えています。

大阪・関西エリアは、歴史的にも、古くから経済・文化・学術・産業の中心として発展してきました。今日においても、大企業から中小企業に至る製造業を中心とした広範な産業基盤に加え、大学や研究機関、医療・ライフサイエンス、観光・文化など、多様な分野で高いポテンシャルと集積力を有している地域です。こうした地域の力が、万博というグローバルな舞台でどのように花開くのか。その展望は、私たち地域金融機関にとっても大きな関心事であり、またその責任の一端を担っていることを誇らしく思っています。特にこの地域の大学や研究機関などは、再生医療や水素、量子技術といった多くの先端分野で世界トップクラスの成果をあげています。これらの「知」が地域の産業と結びつけば、関西はまさに「未来社会の実験場」として輝きを放つことができると確信しています。当社グループとしても、これまでイノベーションファンドを通じたスタートアップなどへの出資や、独自の助成金制度を通じたニュービジネスやイノベーション研究開

発への支援を積極的に行っており、新事業創出による地域活性化に貢献してきたと自負しています。

また、当社グループの営業エリアがカバーする人口は約1,424万人、民営事業所数は約70万に上るなど、市場規模は東京都に匹敵するとともに、エリア内では金融資産を多く保有されているお客さまが多い点も特長です。「大阪・関西万博」はもとより、JR大阪駅前の「うめきた2期地区開発プロジェクト」、その先には統合型リゾート（IR）など、地域経済の活性化につながるイベント／プロジェクトが着実に進行中であり、多くの成長機会が見込まれています。このような恵まれた地盤や産官学など外部とのアライアンス、当社グループの多様な人的リソースなどをバランスシートに見立てて「ポテンシャルB/S（＝可能性のバランスシート）」と称し、それらを活用して引き上げていくことを目指しています。しかしながら、明治以降、わが国においては東京への一極集中化が進み、若い世代の中には「東京にはかなわない」という意識が根強く存在します。だからこそ、万博という国際舞台を通じて、「大阪・関西発の価値が世界に届く」という成功体験を一人でも多くの若者に届けたいのです。

一方で、足もと、グローバル化がもたらす企業活動の変化と、それに対する支援の必要性を強く感じています。新型コロナウイルスによるパンデミックは、世界中のサプライチェーンを寸断し、グローバル・バリューチェーン（GVC）の脆弱性を顕在化させました。さらに、トランプ大統領の再登場のなかで激化しつつある米中対立、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、中東情勢の緊迫化など地政学リスクの高まりにより、従来の効率性重視の国際分業体制は再考を迫られています。GVCを通じた世界経済の相互依存関係が深化する中、世界で起きている変化の波は、大企業のみならず、多くの中堅・中小企業にも直接的な影響を与える時代となっています。こうした時代において、地域の未来をどう描き、どう伴走していくかは、地域金融機関にとっても大きな課題です。

当行の取引先の大宗は、地元の中堅・中小企業であり、大阪・関西地域が古くから海外との貿易も盛んであったという背景も相まって、電機・電子、繊維・化学、機械・金属、自動車関連をはじめ多くの取引先が、大手企業の動きに呼応する形で、早くから海外事業展開を進めてきました。近年では、自ら主体的に海外市場と向き合う中堅・中小企業も増えています。こうしたなか、当行では、海外事務所（中国・蘇州、ベトナム・ホーチミン）も活用しつつ、親会社や現地法人向けの融資、為替・送金やリスク・ヘッジ手段の提供な

どに加え、現地の投資環境や各種規制・法制度、税務・会計面の情報提供、外国人人材の紹介など、さまざまな領域で地元企業の海外事業展開をお手伝いしています。時に当行だけでは十分対応できないような分野については、JBICやJETROなどの公的機関、在阪の各国総領事館などとも連携しながら、地元企業にとって最適な支援の可能性を模索しています。

大阪・関西万博は、こうした私たちの取り組みを加速させる絶好の機会でもと考えています。世界と交わるこの場において、地元企業が自身の技術や価値観を発信することで、新たな顧客やパートナーとつながり、事業の可能性を広げていく。万博は一過性のイベントではなく、地域と世界が再接続し、互いの未来に関与するきっかけとなるべきと思っています。当社グループは、地域の夢を世界とつなぐ金融機関として、これからも挑戦を続けていきます。大阪・関西万博という大きな節目を通じて、地域の可能性を信じ、支え、ともに未来を描いていく存在でありたいと考えています。

#### （著者略歴）

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 昭和55年 4 月 | 株式会社池田銀行 入行                          |
| 平成18年 8 月 | 同行 企画調整部長                            |
| 平成18年11月  | 同行 執行役員                              |
| 平成22年 5 月 | 株式会社池田泉州銀行 執行役員                      |
| 平成23年 6 月 | 同行 取締役                               |
| 平成24年 6 月 | 株式会社池田泉州ホールディングス 取締役                 |
| 平成26年 6 月 | 株式会社池田泉州銀行 常務取締役                     |
| 平成28年 6 月 | 同行 取締役専務執行役員                         |
| 平成30年 6 月 | 株式会社池田泉州ホールディングス<br>代表取締役社長 兼CEO（現職） |
| 平成30年 6 月 | 株式会社池田泉州銀行<br>代表取締役頭取 兼CEO（現職）       |

